

浜通り地区活性化における新旧魅力の発信等のコンテンツの発掘

静岡大学 地域創造学環 焼津・浜通りフィールドワーク

(教員)太田隆之

(3年生)大石凜里花・大澤美潤・宮城羽那

1. 要約

焼津発祥の地である浜通り地区の活性化の可能性を検討すべく、浜通り地区で実施される「あかり展」等のイベントに参加するとともに、「海業」に取り組む牧之原市・地頭方漁港の調査を行い、浜通り地区ならびに焼津市の活性化のあり方や可能性を検討した。

2. 研究の目的

焼津市では年々人口減少が認められる一方で、近年社会増を記録し、転入者の増加傾向が認められる。こうした中で漁具倉庫がリノベーションされるなどの取り組みが行われ、2024年度に水産庁により「海業」振興のモデル地区に認定された。市ではかねてから地域資源を活用した交流の推進等が目標として位置づけられてきたが、訪日外国人客が増加する中で観光振興が市の活性化の1つの肝になる。

本事業では、昨年度取り組んだ事業での提案を踏まえて、「海業」振興に取り組む他地域の調査を行うとともに浜通り地区が有する歴史的、文化的な可能性にも注目し、浜通り地区が有する可能性と浜通りならびに焼津市の「海業」のあり方についての提案を目指す。

3. 研究内容

事例として注目する浜通り地区は、地域創造学環(学環)が現場での学習を核とした科目として立てている「フィールドワーク」において学環が対象地の1つとして設定した地域である。これまでに「浜通り活性化計画」や浜通り地区の旧家「服部家」を活用する「服部家保存活用計画」の作成に関わる機会をいただいた。こうした活動に取り組む中で2021年度、そして昨年度にゼミ学生等地域貢献推進事業に取り組み、「服部家」をリノベーションしてできた「帆や」の利活用のあり方を検討し、浜通り地区にある食資源の可能性について検討してきた。本事業ではこうした活動で得た知見や情報を元に、新たに浜通り地区で開催されるイベントやその企画にも参加しながら、水産業をベースとした「海業」への取り組みや、かつて小泉八雲がこの地区に滞在したことを活かした取り組みなど、浜通り地区が潜在的に有する可能性を調査、検討し、そうした可能性を「帆や」と関連させながら浜通り地区の活性化のあり方の提案を試みた。

4. 研究の成果・課題

(1) 当初の計画

これまでに取り組んできた活動を踏まえ、本事業では以下の活動を計画した。

- ・「あかり展」等浜通りで行われるイベントに準備から参加し、浜通り地区の活性化の方向性を検討する。
- ・浜通り地区の水産加工業者や自治会への調査・意見交換を実施する。
- ・焼津市内の高校を中心に焼津市内外の若者と交流し意見・情報交換を行う。
- ・活性化に向けた提言をまとめ、コンソーシアムのフォーラム等で成果を報告する。

(2) 実際の内容

事業の評価につき、Aを予定通り、Bを内容の一部修正、Cは中止という評価を行うこととなっている。本事業では実施できた事業とできなかった事業があったため、B評価とする。

まず、浜通りで行われるイベントへの参加について、今年度は6月に実施された「ハマノヒマルシェ」と9月に実施された「あかり展」に準備段階から参加し、当日の運営のサポートに取り組んだ。併せて、次年度実施す

ることが検討されている小泉八雲を素材にしたイベントの企画にお声がけをいただいた。その中で八雲に関する研究論文を公表する雑誌に注目し、浜通りと八雲に関する論文や記事、浜通りに滞在していた当時の八雲の生活に関する論文や記事を探し、集めた。そして、この取り組みを踏まえて改めて浜通りのまち歩きを行い、浜通りの現状を検討した。

次に、焼津市内外の若者と情報、意見交換を行うことについては、当方とタイミングが合わず、事業期間中に実施することができなかった(2月に実施を予定)。

そして、浜通り地区で活動する水産加工業者や自治会への調査、意見交換の機会は得られなかった。しかし、これらに取り組んでいく上での取り組みとして、焼津市が水産庁による「海業の推進に取り組む地区」に認定されたことを受けて、水産庁の「海業振興モデル地区」に認定された牧之原市の地頭方漁港を管理・運営する南駿河湾漁業協同組合に聞き取り調査を行った。「海業」への取り組みやこれまでに取り組んできた活動の効果についてお話を伺い、浜通りを含めた焼津市における海業の取り組みに向けた示唆を得た。

(3)実績・成果と課題

本事業の主な実績として以下の3つを挙げる。

・浜通りのイベント「ハマノヒマルシェ」、「あかり展」の準備段階から参加し、運営にも関わりながら浜通りの活性化に向けた取り組みや当日の賑わいの状況を把握した。



これまで、浜通り地区では毎秋に「あかり展」が実施されてきたが、今年度は新たにマルシェに特化した「ハマノヒマルシェ」を開催することとなり、6月に実施された。我々はこの取り組みの企画の検討から参加する機会をいただき、当日の運営にも参加した。このイベントでは出店する店は食材など焼津の資源を使うことを基本とするという条件で開催されること、日中の時間帯で開催されるなど「あかり展」と異なる内容で開催されることとなり、どうなるだろうと思ったが、当日は多くの来客があった。焼津の資源を活用した商品に加えて体験型プログラムも複数実施された。改めて焼津の可能性、そして浜通り地区に評価される資源があることを確認した。

秋に開催された「あかり展」では、従来行われてきたマルシェを行わずに開催されることとなり、上記のマルシェより来客が少なくなるのではないかと思ったが、実際には例年通り多くの来客を得、行灯が並べられた通りを楽しまれていた。今年度はマルシェを伴うイベントとそうではないイベントの両方に参加する機会をいただいたが、マルシェの有無に関わらず浜通り地区には多くの来客があることを体感することができた。歩行者天国にすることやイベントを開催するという条件下ではあるが、浜通り地区には可能性があることを改めて把握することができた。

・小泉八雲に注目したイベントの企画への参加

上記のイベントに取り組む中で、別のイベントとして来年度小泉八雲に注目したイベントを開催する企画があり、お声がけをいただいて参加する機会を得た。小泉八雲は東京帝国大学で英文学の講師をしていた時に夏季の休暇で焼津を訪れ、浜通り地区に滞在する機会を得て以降、焼津を気に入って毎夏焼津に滞在して満喫していたことが知られており、これまで我々が浜通りで活動をする中でも度々この話を伺ってきた。今回、こうした企画

にお声がけをいただいたことを機に、浜通りに滞在していた時の八雲の生活や浜通りの歴史的、文化的な資源の可能性を検討する活動に着手した。

手始めに本学の図書館に所蔵されていた雑誌『八雲』に注目し、今日まで公刊されている本誌について、焼津に滞在した八雲や八雲と浜通り、焼津について議論している論文や記事の有無を確認し、関連すると思われる論文や記事を探し、把握する作業に取り組んだ。関連すると思われる資料を複数見つけ、内容を確認した。その結果、浜通りの床屋で散髪をしていたことや、よくジンジャーエールを買って飲んでいたり、浜通りから浜当目地区、焼津神社の辺りまでよく散歩をしていたという記録があったことを確認した。

今年度は下調べの作業を中心に行ったが、これらの活動から、これまで活動をしてきた浜通りで八雲が活動していた様子が把握できたこと、そして上記のイベントとは別の浜通りの可能性があることを把握できた。

・「海業振興モデル地区」である牧之原市地頭方漁港の取り組みの聞き取り調査



浜通り地区の活性化を検討する際に、かねてから地区内やその周辺で活動する水産業やその関連産業をベースにした取り組みは大いに可能性があると考えてきた。昨年度の本事業で水産庁による「海業振興モデル地区」に認定された沼津市の戸田漁港・地区の調査を行い、「海業」の可能性について検討した。そうした中で漁具倉庫をリノベーションしてテレワークスペース、そして宿泊施設も備えた焼津 Porters が開業し、上述した「海業の推進に取り組む地区」に認定された。こうした動きを踏まえて、今年度は静岡県内でもう1つの「海業振興モデル地区」である牧之原市の地頭方漁港と、この取り組みを推進する南駿河湾漁協への調査を行い、活動内容や経緯についてお話を伺った。

地頭方漁港・地域は駿河湾と遠州灘を視野に入れた良い漁場を有しながら、漁業の担い手の減少、そしてこの地域にあった市民プールの閉鎖で賑わいの拠点を失うなどの課題を抱えていた。こうした中で水産庁の「海業」振興の取り組みに注目し、申請して採択されたという。この取り組みの中で、これまで漁港で年に3回程度行うイベントで多くの来客を得てきたこと、「海業」振興に向けた取り組みを支える組織的体制が南駿河湾漁協の皆さんをベースとした体制から広がっていくタイミングにあること等のお話を伺った。興味深かったのは、焼津の水産物は加工品が中心となって扱われているのに対して、南駿河湾漁協では鮮魚を核に事業が展開されており、この点に地頭方漁港・地域の特徴があるということであった。昨年度の戸田漁港ではプレジャーボートの受け入れなどの可能性を模索するお話を伺ったことを踏まえると、「海業」のあり方は多様であり、各地の特徴を活かして事業を展開しうることを把握した。鮮魚を扱うことの良さがあることは当然ながら、加工品が扱えることも焼津の強みであると考えた。そして、海業を推進する体制が広がっていることも示唆的であった。

(4) 今後の改善点や対策

改善点・対策としては、浜通り地区ならびに焼津市における「海業」の展開についての検討であり、実施できなかった浜通り地区の水産加工事業者の皆さんへの聞き取り調査である。焼津 Porters が本格的に稼働する中で、「帆や」やいくつかの水産加工事業所があり、小泉八雲が滞在した事実がある浜通りは複合的な内容を有する「海

業」に合致した地区だと考える。この取り組みの核の1つに食資源があり得ることから、学生・若者目線で食の可能性を検討したい。

5. 地域への提言

マルシェの有無に関わらず浜通り地区はイベントを開催すれば多くの来客を得、人々から評価されていることを把握した。このことを踏まえて、日常の中で賑わいを得ていくことが大きな課題となる。この要素としてゲストハウスである「帆や」は重要であり、複数の水産加工事業者が活動している状況を踏まえての食の機会が地区内に得られれば、日常的に賑わいの機会を得ることができるのではないかと考える。更に、こうした状況に加えて、小泉八雲が滞在したことに起因する歴史、文化に関わる潜在的な資源を見出し、評価して活用することができれば、より確実に日常的な賑わいを得ていくことにつながっていくのではないかと、そして他地域にはない独自の「海業」の可能性があるのでないかと考える。

6. 地域からの評価

焼津市浜通り地区の活性化における新旧魅力の発信等コンテンツの発掘に取り組んでいただいたこと、また「ハマノヒマルシェ」及び「あかり展」の開催にあたり、事前準備から当日までご協力いただいたことに感謝申し上げます。

浜通り地区は、当市の水産業発祥の地として、かつては多くの店舗、加工場などが並び賑わいを見せていたが、現在では少子高齢化による人口減少や事業者の郊外移転などにより空き家、空き地等が増加し、風情ある街並みや以前の活気が失われつつある。

一方で、ハマノヒマルシェやあかり展などのイベントを開催した際には、多くの方に浜通り地区にお越しいただき、大きな賑わいを見せている。

このイベント開催による賑わいを一過性に留めることなく持続させるため、当市の魅力である「食文化」に加え、浜通り地区の交流拠点である「帆や」の日常的な活用策、さらには小泉八雲ゆかりの潜在的なコンテンツを把握し、提言に結び付けていただいたことは、当市においても有益で浜通り地区の活性化に資するものである。

また、海業に関する他市の事例等を調査、ご報告いただいたことで、浜通り地区を結び付けた当市独自のコンテンツ開発の可能性を再認識でき、他地域との差別化を図りながら当市が目指すべき「海業」振興のあり方を検討する上での有益な提言であった。

今後も引き続き連携を図りながら、浜通り地区の活性化及び海業の推進に取り組みたい。